

WEEKLY SIGNAL

平成30年2月2日(金) 1410号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	2/8(木)	2/9(金)
無担保O/N			△0.075% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,100	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン
財政他	△ 21,000	+ 3,000	+ 2,000	△ 4,000	+ 2,000
資金需給	△ 19,900	+ 4,000	+ 3,000	△ 4,000	+ 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)		交付税特会借入・償還	10年物価連動国債発行	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,400 CP等買入 △ 300 国債補充供給 + 800				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,400	国庫短期証券 + 7,500 国債買入 + 7,200			
(日本)			毎月勤労統計(12月、17年平均) 景気動向指数(12月)	日銀、鈴木審議委員、講演 (和歌山市) 国債収支(12月) 貸出・預金動向(1月)	マネーストック(1月) 第3次産業活動指数(12月)
(海外)	米 ISM非製造業景況指数 (1月) 欧 ユーロ圏サービス業・ 総合PMI(1月、改定値) 欧 ユーロ圏小売売上(12月)	米 貿易収支(12月) 米 求人件数(12月) 米 セントルイス連銀総裁、講演	米 消費者信用残高(12月) 米 グラス連銀総裁、講演 (フランクフルト) 米 ニューヨーク連銀総裁、講演 米 シカゴ連銀総裁、講演 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演	米 新規失業保険申請件数 (3日終了週) 米 ファイデリティ連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 カンザスシティ連銀総裁、講演 米 暫定予算期限切れ 欧 ECB経済報告 英 BOE、金融政策会合	米 卸売在庫(12月)

<インターバンク市場>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.035 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.015 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<CP>

日銀当座預金残高は週初366兆6,900億円から始まった。2日には税・保険揚げを主因に減少し361兆2,200億円を越えた。無担保コールON物金利は、週初から30日までは△0.04%台半ばで取引されたが、月末となる31日は調達を控える動きが広がったことで、加重平均金利は△0.050%まで低下した。2月に入ると、ビッドサイドが再び厚くなり、週末の2日は△0.03%~△0.04%で多く取引される堅調な地合いとなった。ターム物は、1-2W物を中心に△0.03%台での出合いが散見された。31日に通知された日銀の国債買入オペは、残存期間3年超5年以下で前回比300億円増加され、3,300億円でおファーとなった。また、2日に通知された同オペでは残存期間5年超10年以下で前回比400億円増加され、4,500億円のオファーとなった他、固定利回り方式での国債買入オペ(残存期間5年超10年以下)も通知された。

<オープン市場>

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.140
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<TDB>

今週の入札発行総額は約1兆3,000億円で、週間償還額の約1兆3,500億円とほぼ同額となった。週初、月末日の大量償還(約1兆300億円)については、新規発行は8,400億円程度に止まったものの、翌日以降まとまった額の発行が複数散見された。1月末の発行残高は約18兆2,763億円と、2009年3月以来約9年ぶりに18兆円台を記録した。発行レートについては引き続き投資家の運用ニーズが強く、0%近辺の出合い。来週の償還額は、約5,100億円では償還額程度の発行が見込まれる。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺の出合いを予想する。CP等買入オペが、8日に2,500億円程度オファーされる予定。現先レートは、△0.100%~0%程度の横這い圏内の出合いを予想する。

<レポ>

1日に行われた国庫短期証券3M第736回債の入札は、最高落札レート△0.1503%(前回債△0.1487%)、平均落札レート△0.1595%(同△0.1554%)と前回入札からほぼ横ばいの結果となった。週末のセカンダリー市場は、新発3M物が△0.165%の出合いが見られ、堅調な地合い。1Yは△0.16%台後半の気配であった。来週は7日に6M物、8日に3M物の入札が予定されている。

<SC取引>

足許GC取引は末初物となる週初、△0.085%~△0.09%で始まった。以降、月明けは週央まで△0.075%~△0.08%で推移。TDB3Mの発行日である5日受渡しでは△0.06%台までレートが上昇した。週末には国庫短期証券・国債買入オペ及び指値オペがオファーされ、△0.07%~△0.08%近辺まで低下し越えた。

SC取引では、10年349回債のbidが29日の国債買入オペ後に増加。△0.20%台半ば~△0.30%台後半で取引された。入札日前日には△0.50%台の出合いも見られたが、入札日以降は△0.09%~△0.10%台前半で推移した。その他2年381・382・383・384回債、5年133・134回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348回債、20年162・163回債、30年56・57回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。